



総合評価

7. 総合評価	
総合評価コメント	評価
<p>【総評】 概ね、水準通りの管理運営がなされている事が確認できた。 対象施設は令和3年9月から令和4年11月まで、大規模改修により休館中であり、令和4年度については、施設を使用した事業が4か月程度しか実施できていないことから、大規模改修前および改修後に取り組んでいる事業を含めて評価を行った。 全体として、企画運営や広報活動といったソフト面は評価が高いものの、組織体制や維持管理といった面の評価が低くなっている。 指定管理者は、現場の従業員の勤続年数が長いため、安定した事業ができている。反面、このような組織の場合、前例尊重や保守的組織になりがちである。大規模改修を一つの再スタートとして、人事異動がある管理職を中心に、新たな目線での組織体制作りや最新の文化施設運営のノウハウを知る研修派遣などにより、新たな運営体制を構築していきたい。</p>	A
<p>【優れている点】 自主事業については、事業計画で鑑賞型、自主製作型、参加型とテーマを明確にして事業を実施し、一分野に偏らない幅広い事業展開が実施されている。 広報活動においては、SNSなど多様な手法で広く広報活動が行われており、工夫が感じられた。 利用者数・稼働率ともに、コロナ渦前の水準に回復しているのは、こういった取組の成果であると思われる。</p>	
<p>【改善すべき点】 指定管理者の現場職員は勤続年数が長く、各業務に精通していることから、少人数でありながらも安定した運営がなされている。一方で、そのような体制であるが故に、個々の担当者に任せてい</p>	

る部分が多いように思われる。特に組織・運営体制の項目が平均以下となっていることから、厳格な管理体制を作っていただき、馴れ合いによる事故が発生しないように注意していただきたい。

課題と今後の方針

【今後方針についてのアドバイス】

当施設の最たる強みは、駅前にある立地である。この強みを活かした事業展開を行っていただきたい。そのためには、市民が施設に来なくなる取組が必要である。ヒアリングで聞かれたピアノの自由演奏や生涯学習の講座などを実施することで、市民への認知度向上につながると考える。

【施設の運営課題についてのアドバイス】

○組織運営体制

ベテランの職員が多く、意思疎通が容易で業務も円滑に進んでいるが、一方で新たな目線での取組みを行っていくことも重要である。社会を取り巻く環境は常に変化しており、時代にあった施設運営をしていく必要がある。職員の増員などは、難しいと思われる所以、アウトリーチ先やホールを利用する学生などにヒアリングをし、施設でどんなことがしたいかを聞いてみるのも、新たな企画を発見する一つの手段であると考える。

○業務の効率化

少人数体制であることを考慮すると、主要業務(自主事業の企画やアウトリーチ活動など)に時間をかけられる体制に変えていきたい。そのためには、業務を見直し、削減できる業務や簡素化できる業務がないかを確認するとともに、デジタル化などにより効率化できる業務は無いか検討していただきたい。